



■ ミュージカルを科学する

先日、映画「国宝」を鑑賞しました。出演俳優以外、事前情報なしの鑑賞でしたが、その場にいた観客が、固唾を飲んで物語の行く末を見守る、という緊張感に満ちた体験をしました。歌舞伎（人形浄瑠璃・文楽が元）の演目を自身が知っていたため、知らなかった観客に比べるとより楽しめたのかもしれませんが、「話の筋を知っている」ことが、鑑賞の必要条件ではありません。

劇団四季ミュージカル「Wicked」。冒頭の映画のように内容を全く知らず、調べてみると、冒険物語『オズの魔法使い』の世界以前の話、外伝のようですね。

映画にしる舞台にしる、演奏や美術にしても同様ですが、何度も同じ芸術作品を鑑賞しに行く方は、多くの一見（いちげん）さんとは異なるのでしょう。もっと深く、気づきを求めたり、差異を味わったりする楽しみ方をするのだと思います。

この芸術鑑賞をきっかけとして、そんなリピーターになることもできます。そして望むらくは、「全然わからなかった」「寝てたわ」などといった感想で皆さんがこの機会を切り捨てず、「わかれよう」とする姿勢で向き合うことです。

観劇という経験をそれほど積み重ねていない私が、僭越ながら観劇のアドバイスをするなら一。みる＝「観る・視る・見る」は数種類あり、それらは一様ではない、ということを事前にわかっておくといいと思います。

今回のような【舞台】が、皆さんが慣れている【スマホショート動画やテレビ・映画】との最も大きな違いは、「カット・編集がない」ということです。

後者の【映像】では、場面ごとに撮影したもの切り貼りして編集し、作品に仕上げていきます。途中で台詞を間違えても撮影し直す

ことが出来ますし、撮影を進めつつ変更を加えていくことも出来ます。短いカットを連続して連ねることで、見ている人に飽きさせない効果を狙ったもので、それ実に「タイパ社会」らしい。そうした短いカットを連ねるということは、前者の【舞台】では出来ません。幕が上がったら、やり直しは利かない一本勝負。演者も演出も、緊張の度合いは全くの別次元です。

舞台で私が注目するのは、舞台上のどこかでいつも何か・誰かが動いているということ。観客は舞台上のどこに視線を移しても自由です。自由ということは、自分なりの視点を持つ必要があること。普段の動画を受身で見たときは性質の違う、主体的な「観る」への調節が必要です。

「観る」を通して得られた感覚や疑問を、「あれはなんだろう？」「これはこういうことかな」と言語化してみませんか。たとえば、悲哀に満ちた場面での照明は何色を使っているかだとか、2階席にまで届く声量を鍛えるにはどういった訓練をしているのか、だとか。

この時に重要なのは、自分の中に、自分なりコンテキストをもつことです。コンテキストとは、自分の経験に紐づいた自分なりの観点、世界の見方のことです。五感を使って感じることと、鑑賞した芸術を自分の中の文脈と照らし合わせて言語化することとをバランスよく行うことで、目の前のものすべてが自分の世界をひろげるきっかけになります。

芸術鑑賞は知識の披露ではありません。「知っている／知らない」「わかる／わからない」の軸ではなく、自分の見方に引きつけて、疑問をもち解釈をしてみましょう。

タイトルの「ミュージカルを科学する」。「科学」≒理科という意味ではなく、客観性・因果・再現性を問うものが科学です。鑑賞後、舞台・

演劇の表現や構造を分析したり、文化的・社会的な視点で考察すると、それは科学の態度といえます。何度講演を重ねても、観客を満足させる仕掛けとはどんなものか、考えてみませんか。

西梅田からの帰路。友人と感想や考察を交わしたり、疑問に感じたことを調べたりするような姿を見かけることを楽しみにしています。

先日配付された「令和7（2025）年度 芸術鑑賞 実施要項」にて、時間・場所を確認しましょう。

11:00 2限終了、SHR

12:10 までには学校を出る

12:45 以降に到着（大阪四季劇場）

13:20 着席点呼

13:30 開演～16:30 終演

◆「舞台観劇でのマナー『カーテンコール』について～」。思う存分に拍手することがマナーです。

■ 当面の予定 手帳にメモしよう！

26日（木）水1 2限＋芸術鑑賞

7月

2日（水）ベネッセ総合学力テスト

LHR「進路の手引き」

3日（木）LHR（授業アンケート・人権事前等）

chromebook 必要

9日（金）午前授業・懇談週間（～7/18）

10日（木）人権講演会（松原市文化会館）

17日（木）進路集会

18日（金）全校集会・大掃除